

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2015年6月26日

[テーマ] ヒアリングで各所に足—景気回復 丹念に点検—

日本銀行前橋支店内の行事で上毛かるたをする機会があった。群馬県出身者だけでなく他県出身者もいる中、大いに盛り上がった。私が絶対取りたかった読み札は「力あわせる二百万」。この札は何とか確保でき、ホッとしたが、もう一枚狙っていた「世のちり洗う四万温泉」は、勝利とともに若手に取られてしまった。

発令から早いもので1か月が過ぎた。日本銀行本店で四半期ごとに開催される支店長会議まであと2週間を切っており、管下の企業や金融機関へのヒアリングのため、私はほぼ毎日、県内各所に出かけている。

「独立性」と「透明性」の二つを理念とする日本銀行法の改正が実現したのは、今からさかのぼること18年前。私は当時、準備チームの一員であった。この法改正により金融政策運営は日本銀行の判断に完全に委ねられ、以来、日本銀行は情勢判断体制の確立に向けて急ピッチで取り組むことになった。地域経済調査の充実はその柱の一つであり、支店長がヒアリングに出かける頻度は格段に増えた。

20年以上前に他県の支店で勤務した際によく耳にしていたのは、「日銀支店長は雲の上の存在」という声。そうした声は今も皆無ではなからうが、当地では「支店長の姿を至る所で見かけますよ」と声をかけていただくことも少なくない。どこに行っても皆さん温かく迎えてくださる。明るく開放的というのは群馬の県民性だと聞くが、大変ありがたい。

足もとは緩やかな景気回復の動きが続いている。このまま順調に、日本経済は新たな軌道に乗っていくのか、ミクロの視点から丹念に点検していかねばならない。支店のメンバーと「力をあわせ」、群馬経済の動向をつぶさに調査していくとともに、これを分かりやすく対外説明していくことにも努力していきたい。

群馬県民の皆さま、よろしく申し上げます。

▽ 日本銀行の金融政策運営

1997年6月	改正日本銀行法公布
98年1月	金融政策運営を討議・決定する会合の開始（金融政策決定会合）
4月	改正日本銀行法施行
2000年10月	政策決定の基礎となる政策委員の経済・物価見通しの公表開始 （展望レポート、年2回）
05年4月	全国9地域の景気動向を取りまとめた地域経済報告の公表開始 （さくらレポート、年4回）
13年1月	2%の物価安定目標の導入
13年4月	量・質ともに次元の違う金融緩和の開始（量的・質的金融緩和）
16年1月	展望レポートの年4回化（予定）

（ 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 ）